Veritas NetBackup™ Copilot™ for Oracle 構成ガイド

リリース 3.1 および 3.1.1

VERITAS™

Veritas NetBackup™ Copilot™ for Oracle 構成ガイド

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC.All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup、CoPilot は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェア(「サードパーティプログラム」)が含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供され、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202 以下の「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となり、Veritas による納品が内部設置型またはホスト型のサービスのいずれであるかは問いません。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

http://www.veritas.com

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

https://my.veritas.com

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせてください。

世界共通（日本を除く）	CustomerCare@veritas.com
日本	CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

https://sort.veritas.com/documents

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

APPL.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

http://www.veritas.com/community/ja

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章 概要 5

Copilot について 5
データベースダンプのバックアップの詳細 6
Oracle アクセラレータのバックアップの詳細 6
リストアの詳細 7
Copilot の構成の概要 7

第 2 章 アプライアンスの共有の作成 9

共有の作成 9
NFS のエクスポートオプション 12

第 3 章 アプライアンスの共有のマウント 14

アプライアンスの共有のマウント 14

第 4 章 SLP (Storage Lifecycle Policy) の設定 16

Copilot 用のスナップショットベースの SLP (Storage Lifecycle Policy) の作成 16
Copilot 用の 2 つ目の Storage Lifecycle Policy (SLP) の設定 24
NetBackup での Copilot 用の Oracle データベースクレデンシャルの登録 31

第 5 章 OIP (Oracle Intelligent Policy) の設定 36

Copilot のための OIP (Oracle Intelligent Policy) 設定オプション 36
Oracle アクセラレータのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成 37
データベースダンプのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成 45

1

概要

この章では以下の項目について説明しています。

- Copilot について
- Copilot の構成の概要

Copilot について

Copilot は、ネイティブの Oracle ツールと統合して、DBA (データベースバックアップの管理者) にデータベースのバックアップを回復するためのより優れた制御、可視性、機能を提供する NetBackup Appliance 固有の機能です。バックアップの管理者は、ポリシーの管理、異なるストレージ形式へのデータの移動、データベースバックアップのオフサイトバックアップコピーの作成が可能です。

さらに、Copilot は NetBackup アクセラレータのテクノロジを搭載して Oracle バックアップと復元のパフォーマンスを高速化します。NetBackup アクセラレータは Oracle の増分マージ機能と統合することによって、完全バックアップの必要性がなくなり、バックアップストレージのポストプロセスで新しい完全なデータベースイメージを合成できるようになります。

Copilot は Oracle バックアップと復元のためのアプライアンスで共有を作成したり、長期保持、レプリケーション、NetBackup Oracle アクセラレータのテクノロジのような高度なデータ保護機能のための NetBackup での保護ポリシーをさらに作成したりすることが可能になります。Copilot はアプライアンス限定ですが、NetBackup ソフトウェアで追加の構成手順を必要とします。

標準の共有または最適化された共有のどちらかを作成するかを選択できます。どちらの共有タイプもすべての作業負荷サイズをサポートしますが、最適化された共有は、サイズがより大きなデータベースの保護時間を削減するために、ストレージの拡張機能を使用します。標準の共有は、5230、5240、5330、5340 の各アプライアンスでサポートされ、ディスクレイアウト要件はありません。一方で、最適化された共有は 5330 アプライアンスと 5340 アプライアンスでのみサポートされます。5330 アプライアンスは拡張ストレージ

シェルフ 1 つの予約を必要とします。5340 アプライアンスはストレージシェルフを 1 つすべて必要とします。

p.6 の「データベースダンプのバックアップの詳細」を参照してください。

p.6 の「Oracle アクセラレータのバックアップの詳細」を参照してください。

p.7 の「リストアの詳細」を参照してください。

データベースダンプのバックアップの詳細

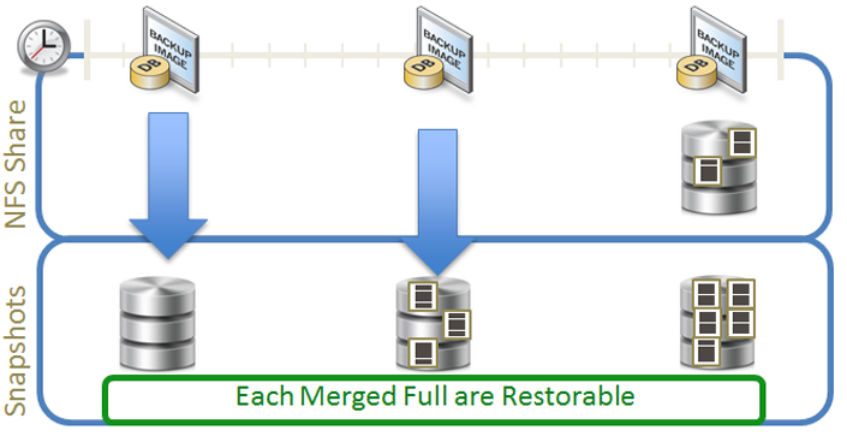
データベースダンプ構成では、RMAN はバックアップデータをアプライアンスの共有に配置するように構成されます。スケジュールされた NetBackup ポリシーがこれを保護します。バックアップのメタデータは RMAN カタログと同期され、RMAN または NetBackup いずれかを介して、リストアを開始することができます。

p.36 の「Copilot のための OIP (Oracle Intelligent Policy) 設定オプション」を参照してください。

p.45 の「データベースダンプのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成」を参照してください。

Oracle アクセラレータのバックアップの詳細

Oracle アクセラレータのバックアップ構成では、初期の完全バックアップは必要であり、それ以降のバックアップは、変更されたブロックのみから構成されます。変更されたブロックは、新しい完全バックアップを保護するために、完全イメージとマージされます。結合処理が完了すると、リストア用の NetBackup バックアップイメージを作成するためのスナップショットが作成されます。Storage Lifecycle Policy (SLP) が、データ保護のレプリケーションのために使用されます。共有内のと NetBackup 内のすべてのイメージが、リストア用に RMAN または NetBackup で使用できます。次の図に、Oracle アクセラレータのバックアップの動作方法を示します。



p.36 の「Copilot のための OIP (Oracle Intelligent Policy) 設定オプション」を参照してください。

p.37 の「Oracle アクセラレータのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成」を参照してください。

リストアの詳細

Copilot のリストアは、RMAN と NetBackup から開始することができます。どちらの場合でも、従来のリストアと同様に、RMAN がリストアを完了するように機能している必要があります。データをリストアするプロセスは、データが共有または NetBackup ストレージユニット内のどちらにあっても同じです。

Copilot の構成の概要

Copilot を構成するために必要な最初から最後までの手順の概要を次に示します。このマニュアルで取り上げる構成では、2 台の NetBackup Appliance を使用します。構成に使用するアプライアンス数に応じて、構成は異なる場合があります。

- アプライアンス上に共有を作成します。
  p.9 の「共有の作成」を参照してください。
- OS のツールを使用して、Oracle クライアントでアプライアンスの共有をマウントします。
  p.14 の「アプライアンスの共有のマウント」を参照してください。
- NetBackup を使って Storage Lifecycle Policy (SLP) を設定します。
  p.16 の「Copilot 用のスナップショットベースの SLP (Storage Lifecycle Policy) の作成」を参照してください。

p.24 の「Copilot 用の 2 つ目の Storage Lifecycle Policy (SLP) の設定」を参照してください。
p.31 の「NetBackup での Copilot 用の Oracle データベースクレデンシャルの登録」を参照してください。

- NetBackup を使って OIP (Oracle Intelligent Policy) を構成します。2 つの OIP オプションを利用できます。
  p.37 の「Oracle アクセラレータのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成」を参照してください。
  p.45 の「データベースダンプのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成」を参照してください。

2

アプライアンスの共有の作成

この章では以下の項目について説明しています。

- 共有の作成
- NFS のエクスポートオプション

共有の作成

以下の手順は、標準の共有、最適化された共有、またはユニバーサル共有を、コンソールまたはシェルメニューを使用して作成する方法を示します。

この手順を始める前に、作成する共有の種類を決めます。標準の共有、最適化された共有、またはユニバーサル共有のいずれかを選択できます。

- 「NetBackup Appliance Web Consoleを使用した標準の共有または最適化された共有の作成」
- 「NetBackup Appliance Shell Menuを使用した標準の共有または最適化された共有の作成」
- 「NetBackup Appliance Web Consoleを使用したユニバーサル共有の作成」

NetBackup Appliance Web Consoleを使用した標準の共有または最適化された共有の作成

以下の手順は、標準の共有または最適化された共有を、NetBackup Appliance Web Consoleから作成する方法を示します。

Web コンソールを使用して新しい共有を作成するには

1 ［管理 (Manage)］>［ストレージ (Storage)］>［共有 (Shares)］に移動します。

2 メインの［共有 (Shares)］ページで［作成 (Create)］をクリックします。

3 [標準 (Standard)]または[最適化 (Optimized)]から作成する共有のタイプを選択します。

メモ: 最適化された共有の予約を作成していない場合は、最適化された共有を最初に作成する際に、最適化された共有の予約を作成するようにメッセージが表示されます。最適化された共有の予約のサイズを選択し、[最適化された共有の予約の作成 (Create Optimized Share Reserve)]をクリックします。作成が完了したら、次の手順に進むことができます。

---

4 共有の名前を入力します (例、`share_1`)。

5 共有の短い説明を入力します (例、`Test for share_1`)。

6 共有のサイズを入力します (例、`5GB`)。

7 [次へ (Next)]をクリックします。

8 [クライアントの追加 (Add Client)]をクリックし、青いボックスにクライアント名を入力します。

メモ: 省略名、FQDN、または IP 形式を使用してクライアント名を入力できます。

---

9 NFS オプションの横にある矢印をクリックし、各クライアントの NFS オプションに変更を加えます。

p.12 の「NFS のエクスポートオプション」を参照してください。

10 チェックマークをクリックして、各クライアントに入力した NFS オプションを確定します。

11 [次へ (Next)]をクリックして、概要を見直して共有の詳細が正しいことを確認します。

12 [共有の作成 (Create Share)]をクリックして共有を作成します。共有を作成すると、成功のメッセージが表示されます。

13 [閉じる (Close)]をクリックして、メインの[共有 (Shares)]ページに戻ります。

NetBackup Appliance Shell Menuを使用した標準の共有または最適化された共有の作成

以下の手順は、標準の共有または最適化された共有を、NetBackup Appliance Shell Menuから作成する方法を示します。

シェルメニューから新しい共有を作成するには

1 管理者として SSH セッションを開いてアプライアンスにログオンします。

2 作成する共有に応じた作成コマンドを入力します。

- Main_Menu > Manage > Storage > Create Share Standard を使用すると、標準の共有を作成できます。
- Main_Menu > Manage > Storage > Create Share Optimized を使用すると、最適化された共有を作成できます。

このコマンドを入力すると、新しい共有の設定作業に移行します。

3 共有名を入力します (例、share_1)。

4 共有の短い説明を入力します (例、Test for share_1)。

5 共有に割り当て済み容量を入力します (例、5GB)。

6 共有にアクセス可能な Oracle サーバークライアントの CSV 形式のリストを入力します (例、10.100.0.2, 10.100.0.3)。

メモ: 省略名、FQDN、または IP 形式を使用してクライアント名を入力できます。

7 各 Oracle クライアント用の NFS のエクスポートオプションを入力します。前の手順で追加した各クライアントのためのオプションを入力するよう、メッセージが表示されます。

p.12 の「NFS のエクスポートオプション」を参照してください。

8 NFS のエクスポートオプションを入力すると、概略が表示されます。

9 yes を入力して、共有を作成します。共有が作成されると、一連のメッセージが表示されます。

NetBackup Appliance Web Consoleを使用したユニバーサル共有の作成

以下の手順は、NetBackup Appliance Web Consoleを使ったユニバーサル共有の作成方法を示します。

Web コンソールを使用してユニバーサル共有を作成するには

1 [管理 (Manage)] > [ストレージ (Storage)] > [ユニバーサル共有 (Universal Shares)]に移動します。

2 メインの[ユニバーサル共有 (Universal Shares)]ページで[作成 (Create)]をクリックします。

3 共有の名前を入力します (例、share_1)。

4 共有の短い説明を入力します (例、Test for share_1)。

5 [次へ (Next)]をクリックします。

6 [トランスポートプロトコル (Transport protocol)]ドロップダウンメニューからトランスポートプロトコルを選択します。

7 [エクスポートオプション (Export options)]に[読み取り/書き込み (Read-write)]または[読み取り専用 (Read-only)]を選択します。

8 [クライアントの追加 (Add Client)]をクリックし、青いボックスにクライアント名を入力します。

メモ: 省略名、FQDN、または IP 形式を使用してクライアント名を入力できます。

9 チェックマークをクリックして新しいクライアントを確認します。

10 [次へ (Next)]をクリックして、概要を見直して共有の詳細が正しいことを確認します。

11 [共有の作成 (Create Share)]をクリックして共有を作成します。共有を作成すると、成功のメッセージが表示されます。

12 [閉じる (Close)]をクリックして、メインの[ユニバーサル共有 (Universal Shares)]ページに戻ります。

p.7 の「Copilot の構成の概要」を参照してください。

Oracle データベースのバックアップの構成について詳しくは、『NetBackup™ Copilot™ for Oracle 初期構成ガイド』を参照してください。

NetBackup ソフトウェアの Copilot について詳しくは、『NetBackup™ for Oracle 管理者ガイド』を参照してください。

NFS のエクスポートオプション

次の表に、共有の作成や修正のために利用可能なエクスポートオプションを示します。

オプション	説明
`ro`	共有で読み取り要求のみを許可します。
`rw`	共有で読み取り要求と書き込み要求の両方を許可します。
`no_root_squash`	すべての root つぶしを無効にします。 クライアント上のルートアカウントが、ルートアカウントとしてサーバー上のエクスポート共有にアクセスすることを許可します。
`root_squash`	要求を UID および GID 0 から匿名の UID および GID にマップします。
`all_squash`	匿名のユーザーアカウントにすべての UID と GID をマップします。 デフォルトでは、NFSサーバーはつぶされたアクセス用に 65534 の UID および GID を選択します。これらの値は `anonuid` オプションと `anongid` オプションを使って上書きできます。

オプション	説明
anonuid	匿名ユーザーアカウントの uid を設定します。 このオプションは、サーバー上の事前定義済み UID へのすべての匿名の接続を強制実行します。
anongid	匿名のアカウントの gid を設定します。 このオプションは、サーバー上の事前定義済み GID へのすべての匿名の接続を強制実行します。
secure	要求が IPPORT_RESERVED (1024) 未満のインターネットポートから生じることを必要とします。
insecure	要求が IPPORT_RESERVED (1024) 未満のインターネットポートから生じるという必要条件を無効にします。

3

アプライアンスの共有のマウント

この章では以下の項目について説明しています。

- アプライアンスの共有のマウント

アプライアンスの共有のマウント

この手順では、Linux または Solaris Oracle サーバーで、共有をマウントする方法について説明します。Windows Oracle サーバーの共有をマウントする方法について詳しくは、http://docs.oracle.com/ で dNFS (Direct NFS) を設定するためのマニュアルを参照してください。

メモ: Copilot での NFS クライアントのパフォーマンスを最適にするには、dNFS (Oracle Direct NFS) を使用することをお勧めします。

次の手順を実行して、アプライアンス共有をマウントします。

アプライアンス共有のマウント

1. Oracle サーバーに root としてログオンします。
2. 次のコマンドを使用してマウントポイント用のディレクトリを作成します。

   ```
   - #mkdir /mntpoint
   ```

3. 次のコマンドを使用してアプライアンス共有をマウントします。*<appliancename>* をアプライアンスの名前、*<share_name>* をマウントする共有の名前で置き換えます。
   - Linux ベースのサーバーでは、次のコマンドを使用します。

- #mount -t nfs <appliancename>:<share_name> -o rw,bg,hard,nointr,rsize=1048576,wsize=1048576,tcp,actimeo=0,vers=3,timeo=600 /mntpoint

- Solaris ベースのサーバーでは、次のコマンドを使用します。

  - #mount -F nfs <appliancename>:<share_name> -o rw,bg,hard,rsize=1048576,wsize=1048576,vers=3,forcedirectio,nointr,proto=tcp /mntpoint

4 次のコマンドを使用して、マウントポイントへのアクセスに必要な Oracle ユーザー権限を付与します。

- #chmod 700 /mntpoint

- #chown <oracle_user>:<oracle_group> /mntpoint

メモ: 共有の権限を変更するには、共有で no_root_squash オプションが有効になっている必要があります。権限を変更したら、このオプションを無効にできます。共有の NFS オプションを変更するには Edit Share コマンドを使用します。共有の編集について詳しくは、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。

メモ: 再起動する前に、すべてのクライアントで共有がマウント解除されていることを確認してください。この操作を実行できない場合、クライアントで共有をマウント解除し、アプライアンスが完全に再起動されてから共有を再マウントしてください。

---

p.7 の「Copilot の構成の概要」を参照してください。

4

SLP (Storage Lifecycle Policy) の設定

この章では以下の項目について説明しています。

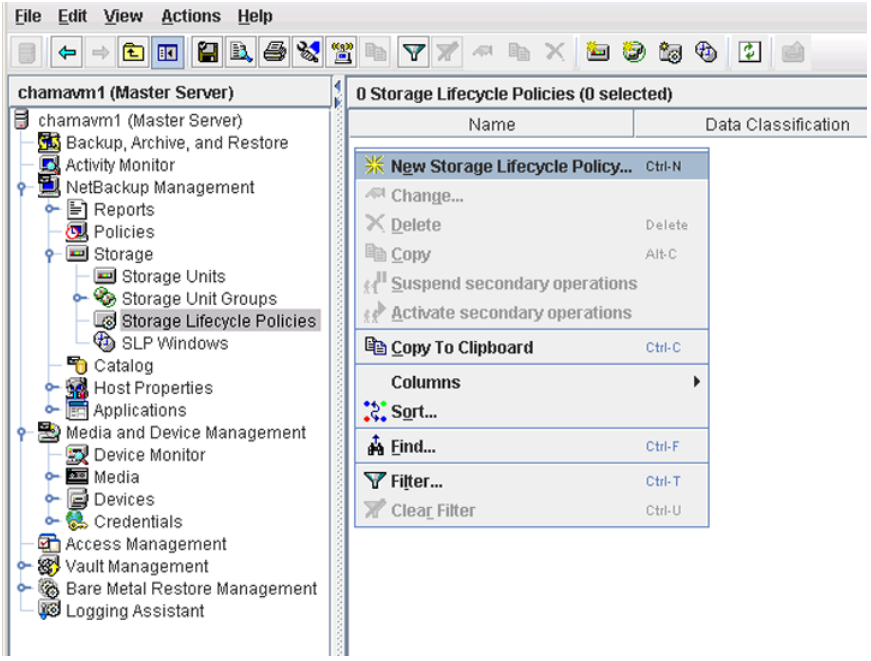
- Copilot 用のスナップショットベースの SLP (Storage Lifecycle Policy) の作成
- Copilot 用の 2 つ目の Storage Lifecycle Policy (SLP) の設定
- NetBackup での Copilot 用の Oracle データベースクレデンシャルの登録

Copilot 用のスナップショットベースの SLP (Storage Lifecycle Policy) の作成

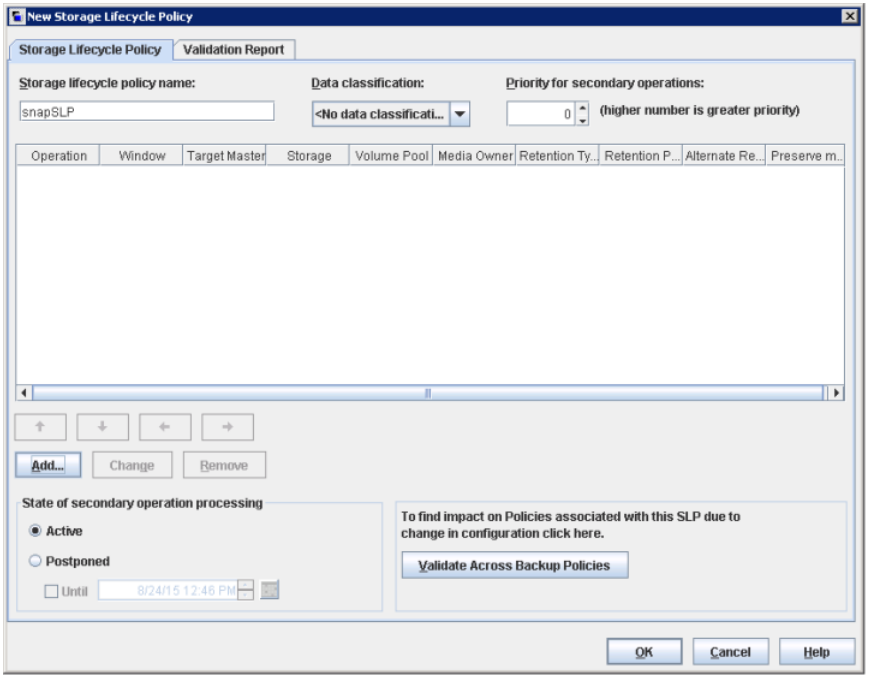
NetBackup 管理コンソールを使って、Copilot 用にスナップショットベースのストレージの SLP (Storage Lifecycle Policy) を作成するには、次の手順を実行します。

スナップショットベースの SLP の作成

1. NetBackup 管理コンソールにログオンします。
2. 右クリックし、[新しいストレージライフサイクルポリシー (New Storage Lifecycle Policy)]を選択します。

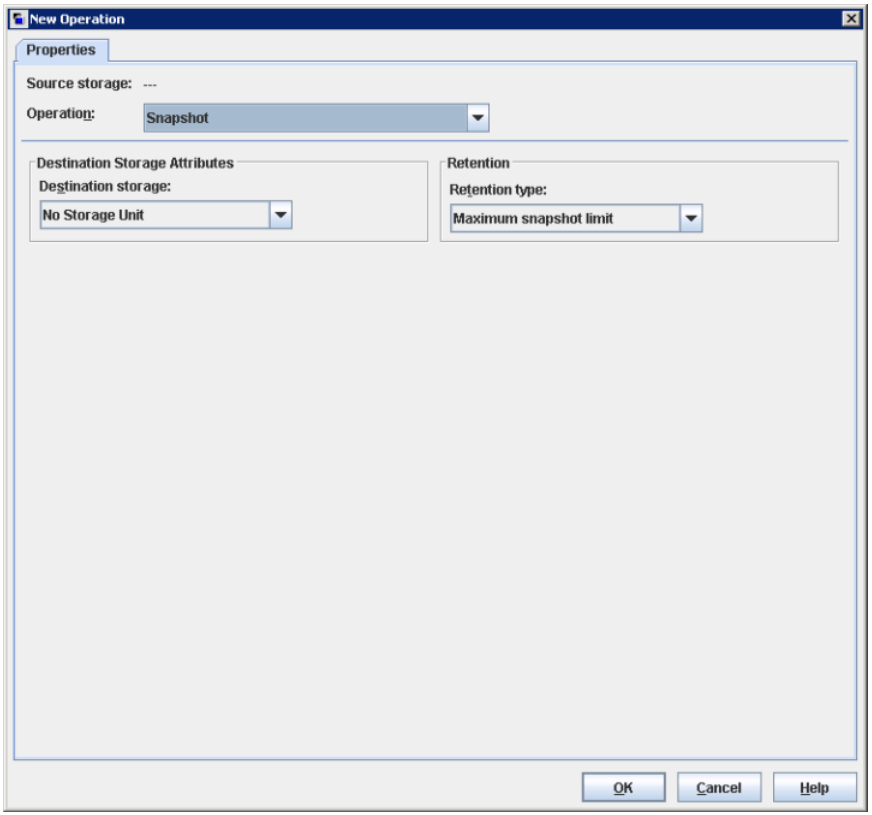


3 ポリシー名を入力し、[追加 (Add)]をクリックします。

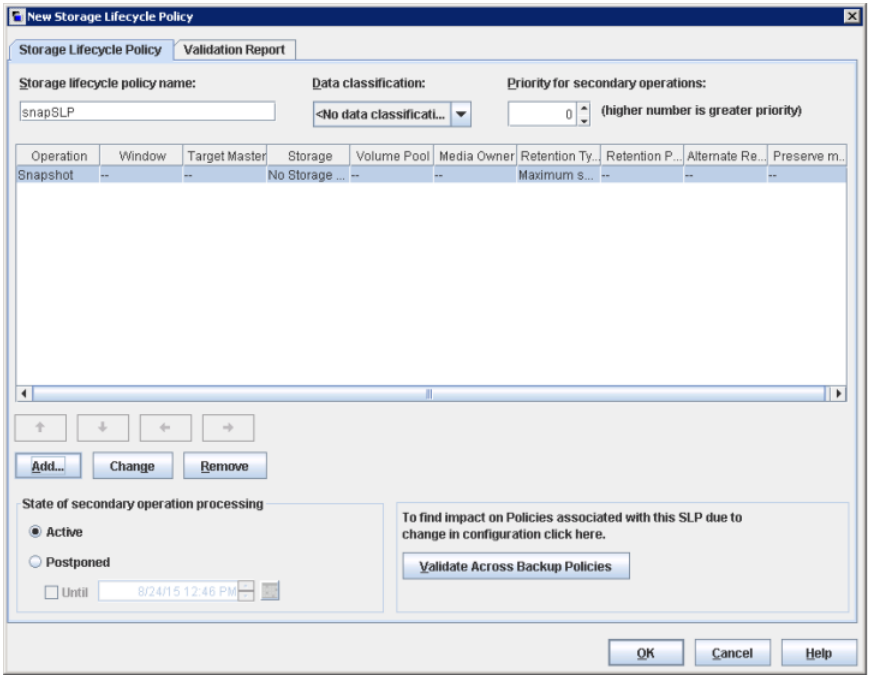


4 [操作 (Operation)]ドロップダウンメニューで、[スナップショット (Snapshot)]を選択します。

5 [宛先ストレージ (Destination storage)]ドロップダウンメニューで、[ストレージユニットなし (No Storage Unit)]を選択し、[OK]をクリックします。

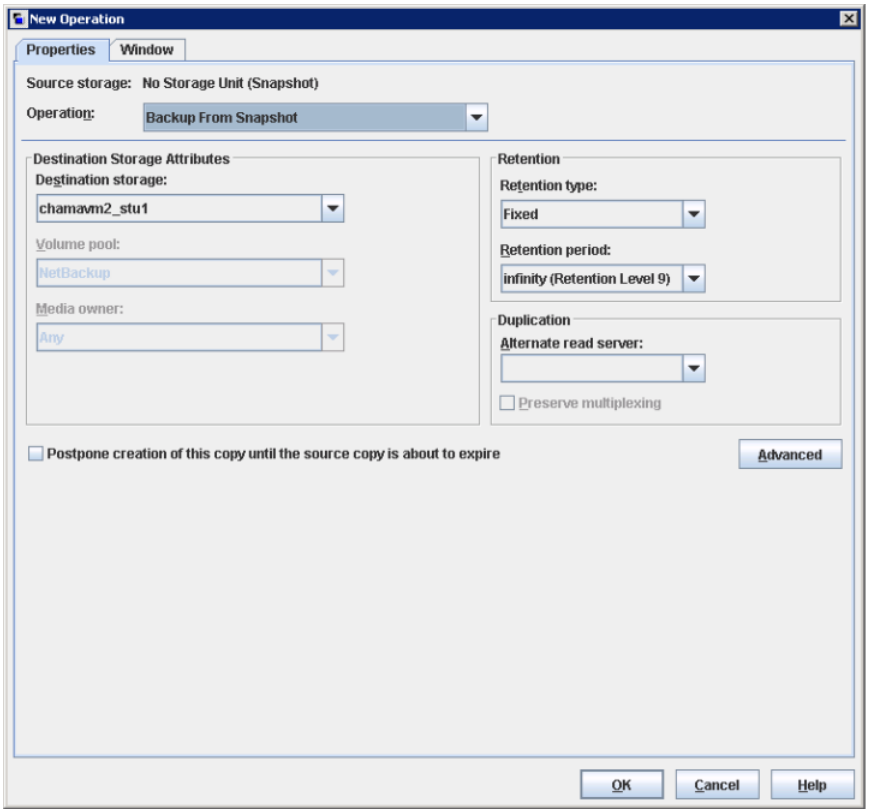


6 ［追加 (Add)］をクリックします。

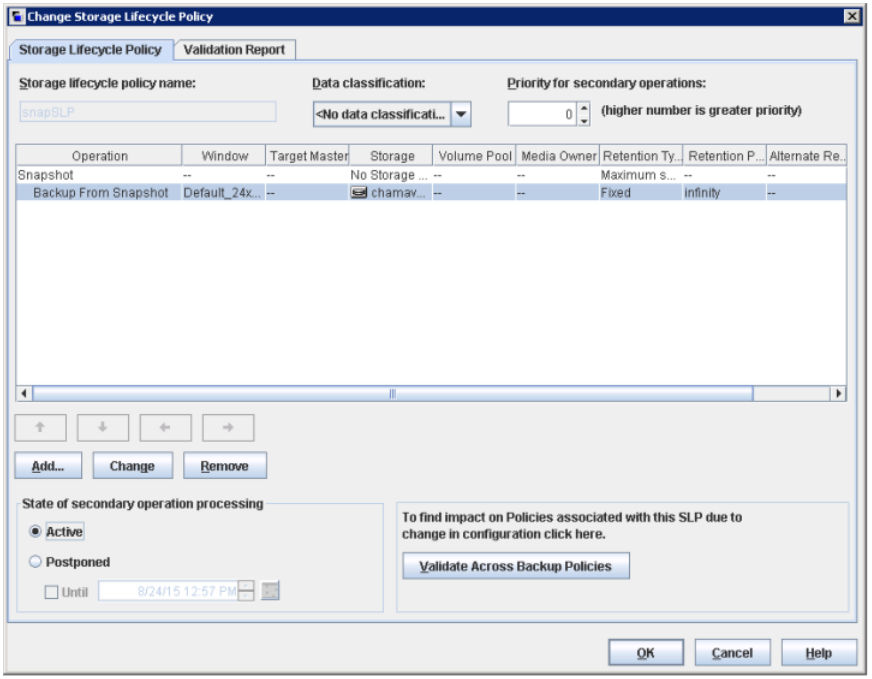


7 ［操作 (Operation)］ドロップダウンメニューで、［スナップショットからバックアップ (Backup From Snapshot)］を選択します。

8 [宛先ストレージ (Destination storage)]ドロップダウンメニューからストレージユニットを選択し、[OK]をクリックします。

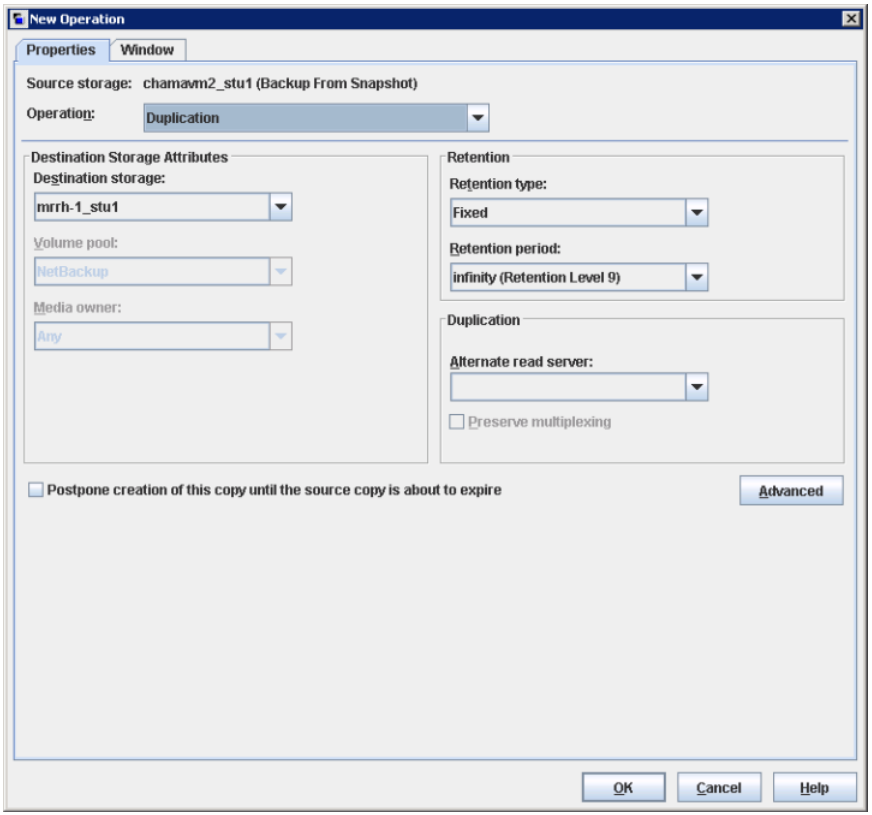


9 ［追加 (Add)］をクリックします。

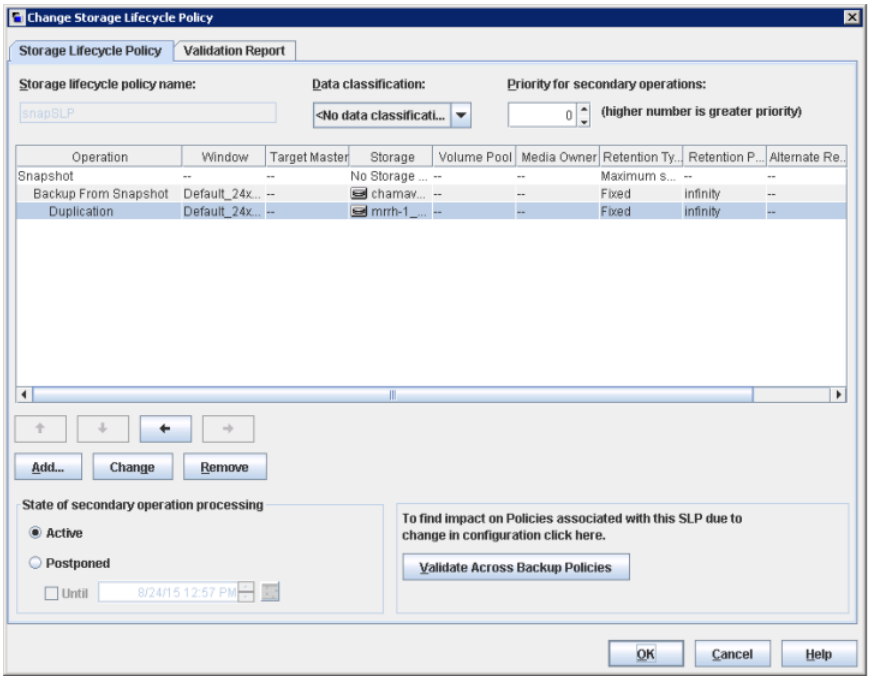


10 ［操作 (Operation)］ドロップダウンメニューで、［複製 (Duplication)］を選択します。

11 ［宛先ストレージ (Destination storage)］ドロップダウンメニューからストレージユニットを選択し、［OK］をクリックします。



12 設定を確認し、スナップショットのバックアップが作成され、SLP 設定の一部が正しく複製されたことを確認し、[OK]をクリックします。



p.24 の「Copilot 用の 2 つ目の Storage Lifecycle Policy (SLP) の設定」を参照してください。

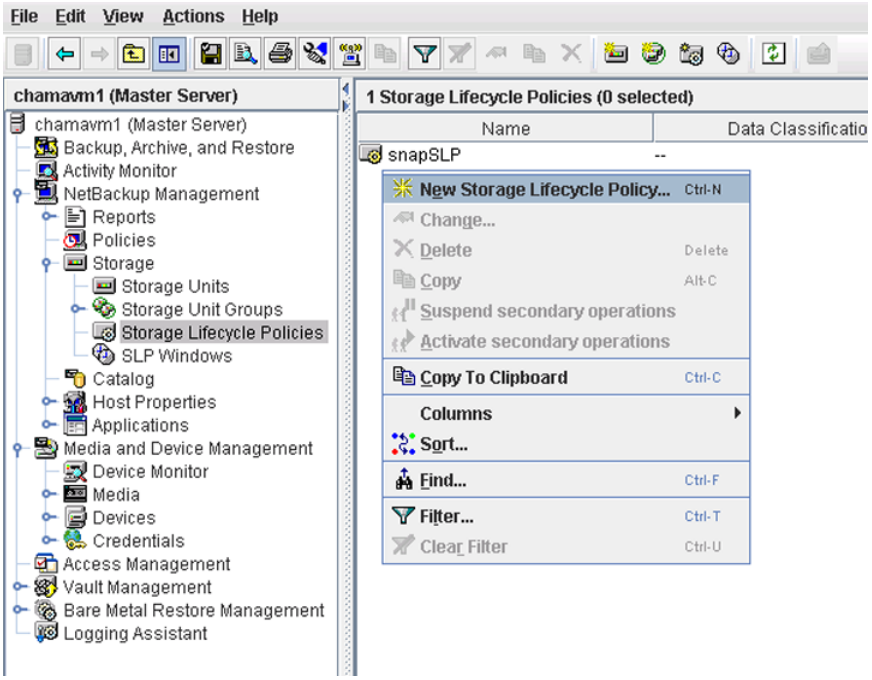
p.7 の「Copilot の構成の概要」を参照してください。

Copilot 用の 2 つ目の Storage Lifecycle Policy (SLP) の設定

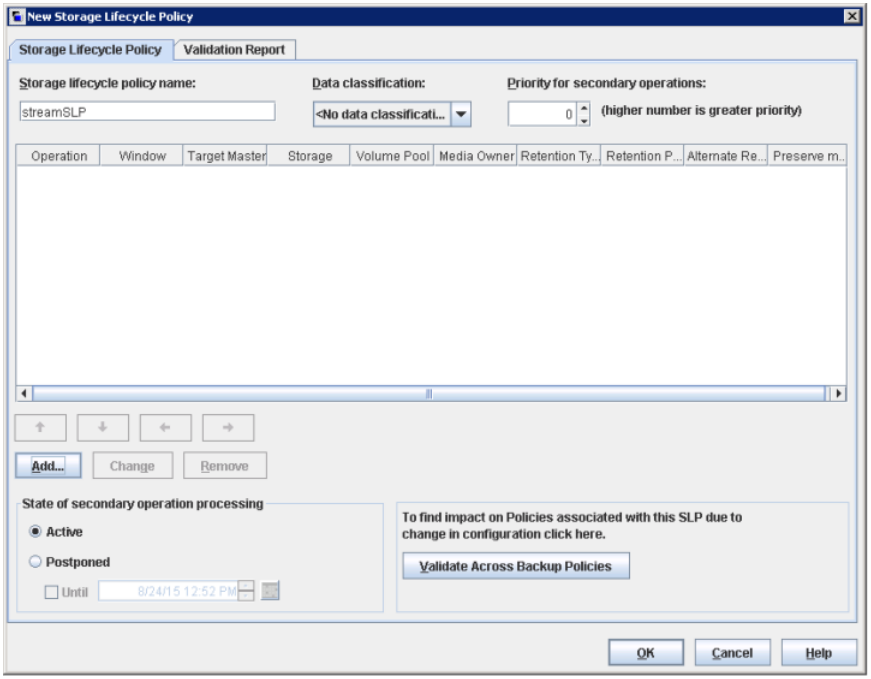
NetBackup 管理コンソールを使って、Copilot 用に 2 つ目のバックアップ Storage Lifecycle Policy (SLP) を設定するには、次の手順を実行します。

2 つ目の SLP の設定

1. NetBackup 管理コンソールにログオンします。
2. 右クリックし、[新しいストレージライフサイクルポリシー (New Storage Lifecycle Policy)]を選択します。

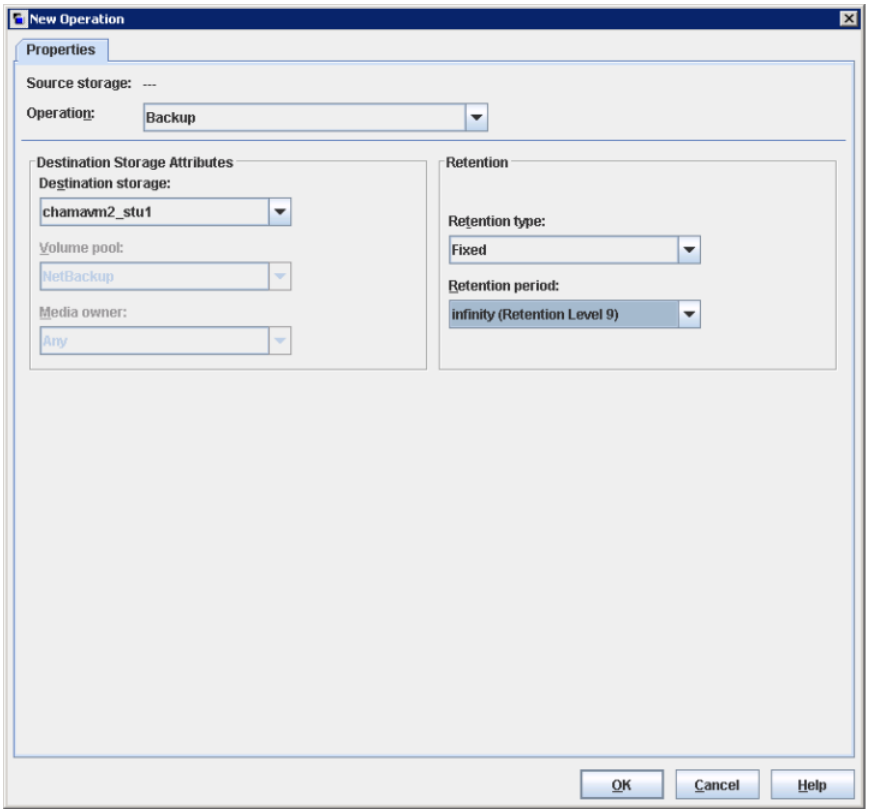


3 Storage Lifecycle Policy (SLP) 名を入力し、[追加 (Add)]をクリックします。

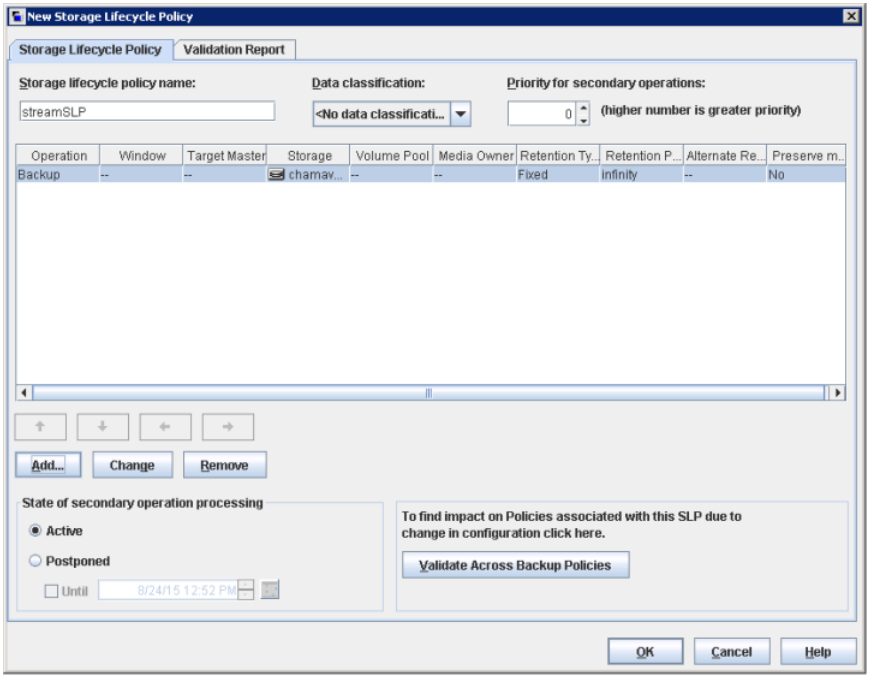


4 [操作 (Operation)]メニューで、[バックアップ (Backup)]を選択します。

5 ［宛先ストレージ (Destination storage)］ドロップダウンメニューからストレージユニットを選択し、［OK］をクリックします。

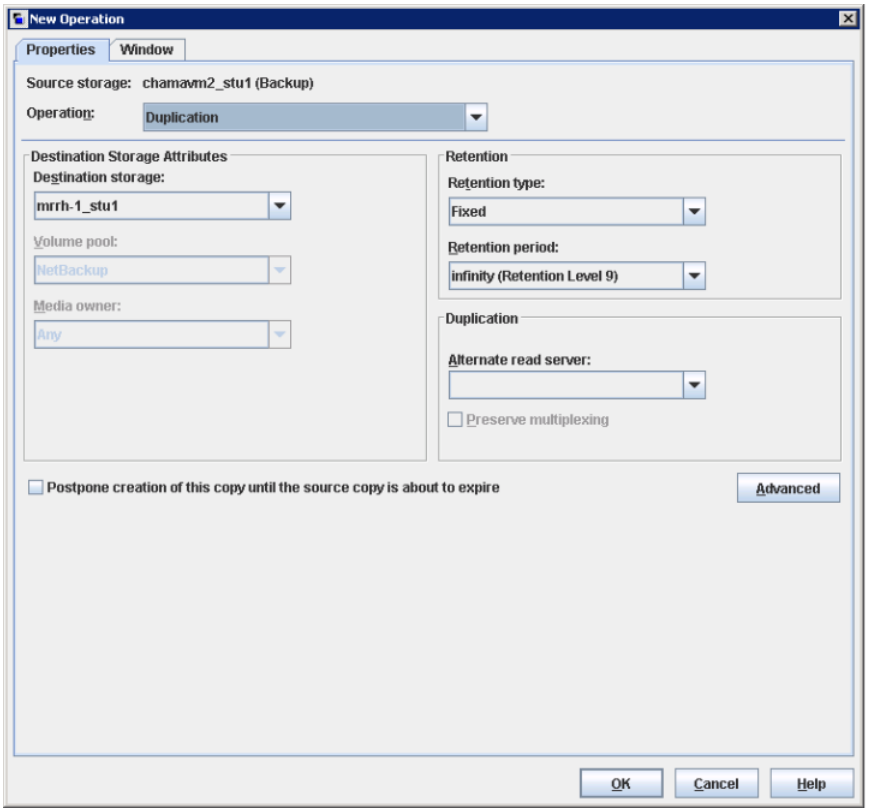


6 ［追加 (Add)］をクリックします。

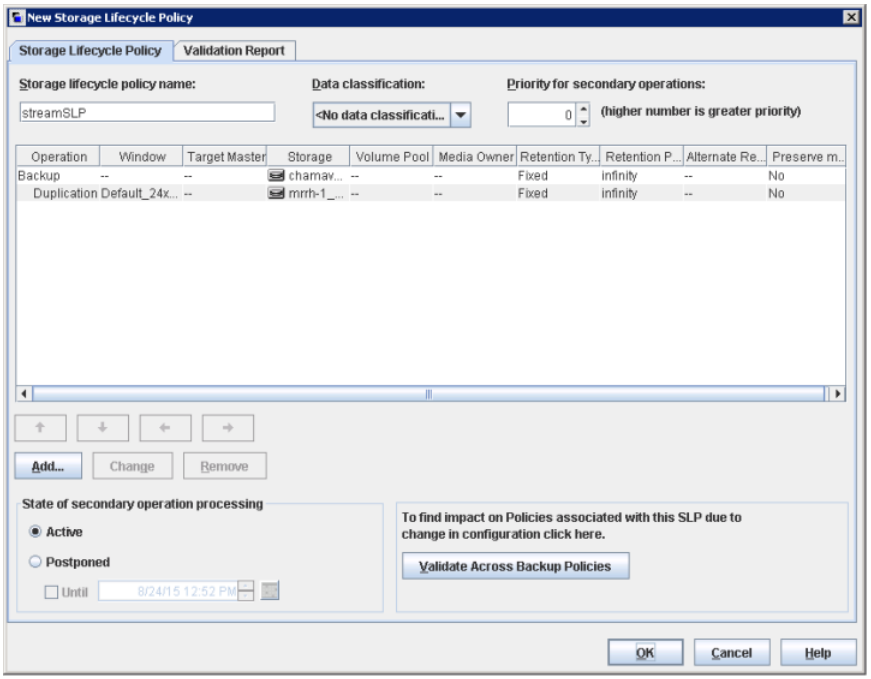


7 ［操作 (Operation)］ドロップダウンメニューで、［複製 (Duplication)］を選択します。

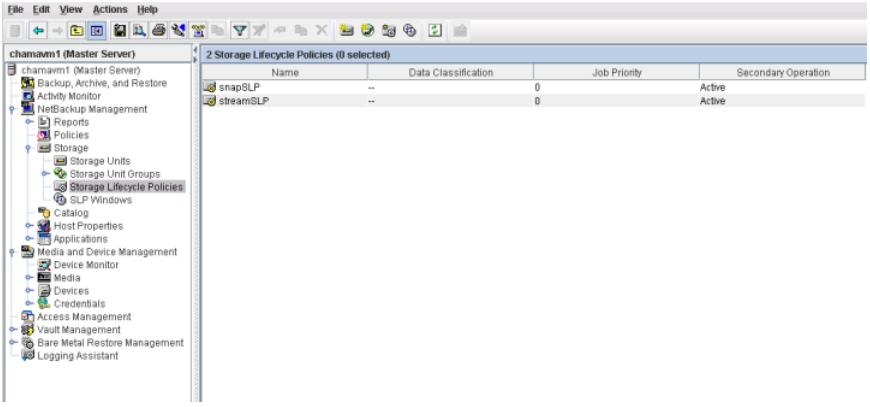
8 ［宛先ストレージ (Destination storage)］ドロップダウンメニューからストレージユニットを選択し、［OK］をクリックします。



9 設定を見直し、SLP 設定のストリーム部分が正しく設定されたことを確認し、[OK]をクリックします。



10 SLP ウィンドウを見直して、両方の SLP が有効であることを確認します。



p.31 の「NetBackup での Copilot 用の Oracle データベースクレデンシャルの登録」を参照してください。

p.7 の「Copilot の構成の概要」を参照してください。

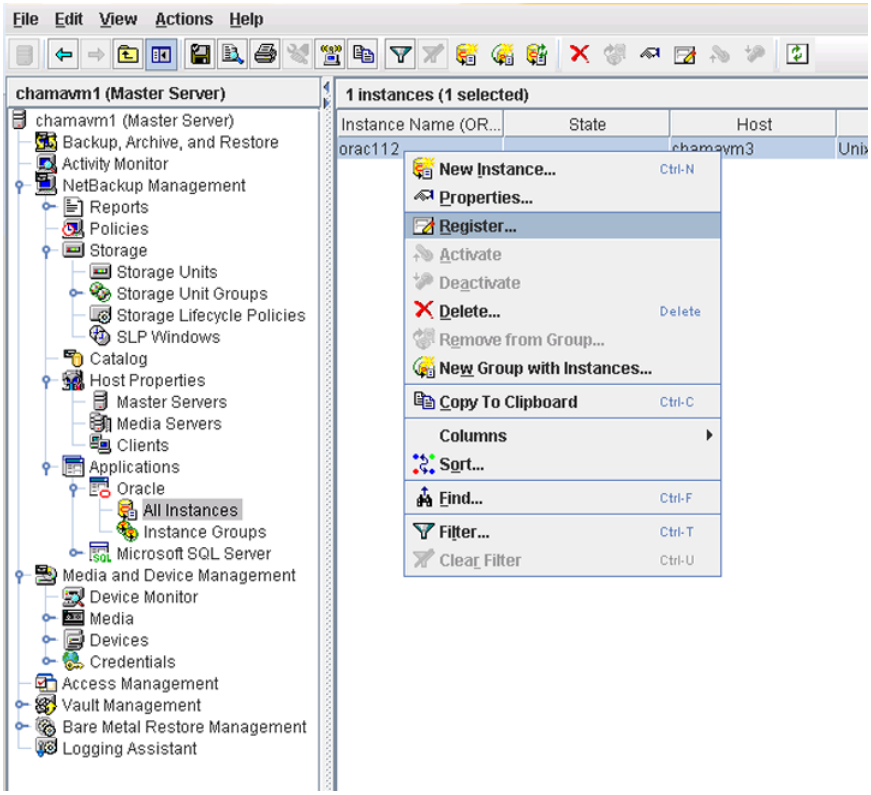
NetBackup での Copilot 用の Oracle データベースクレデンシャルの登録

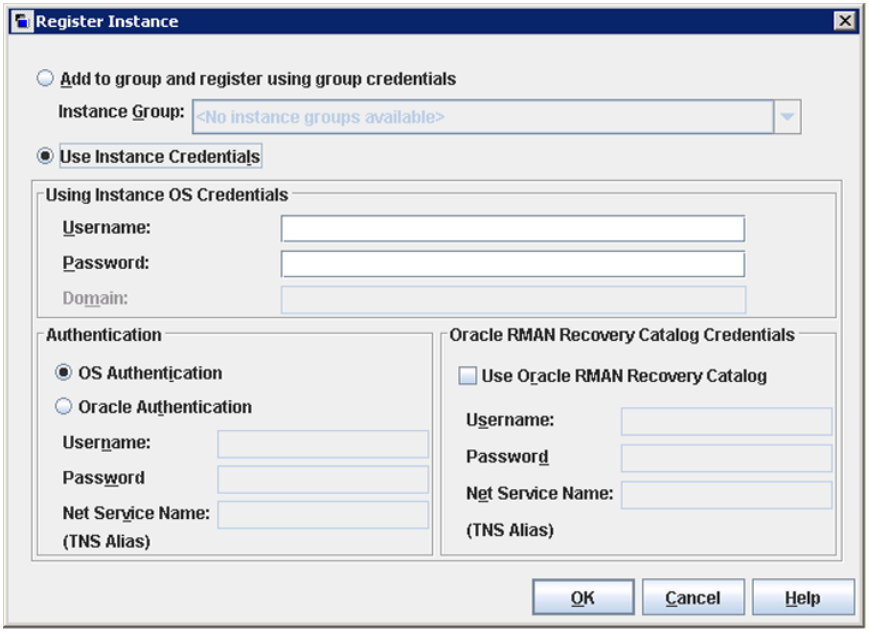
NetBackup で Oracle データベースクレデンシャルを登録するには、次の手順を実行します。

Oracle データベースクレデンシャルの登録

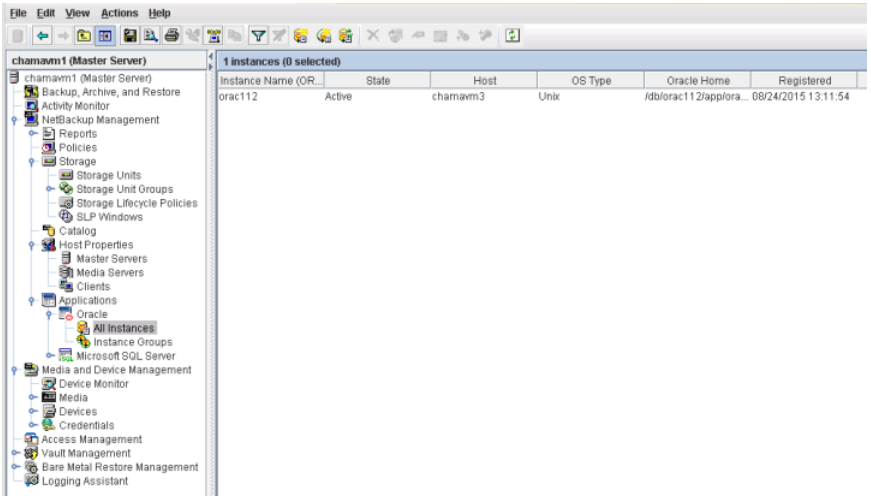
1 インスタンスを右クリックし、[登録 (Register)]を選択します。

2 インスタンスの正しいクレデンシャルを入力し、[OK]をクリックします。





3 インスタンスが正しく登録されていることを確認するには、インスタンスウィンドウを見直します。



p.36 の「Copilot のための OIP (Oracle Intelligent Policy) 設定オプション」を参照してください。

p.7 の「Copilot の構成の概要」を参照してください。

5

OIP (Oracle Intelligent Policy) の設定

この章では以下の項目について説明しています。

- Copilot のための OIP (Oracle Intelligent Policy) 設定オプション
- Oracle アクセラレータのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成
- データベースダンプのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成

Copilot のための OIP (Oracle Intelligent Policy) 設定オプション

Copilot のための OIP 設定時に使用できるオプションは 2 つあります。次の 2 つのオプションから選択できます。

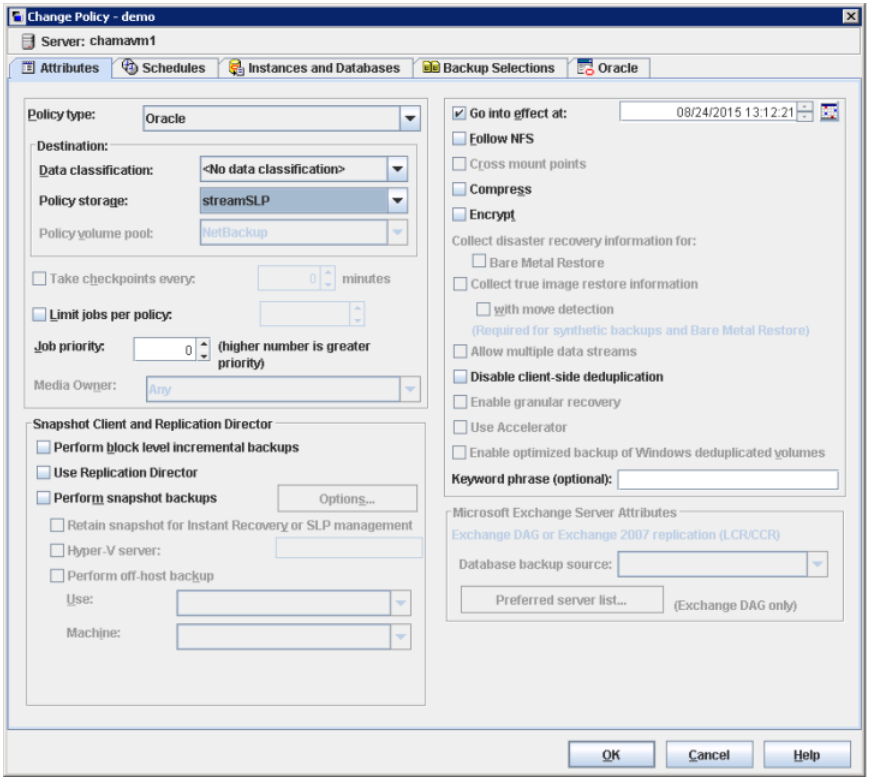
- データベースのバックアップ共有 (Database Backup Shares)
  このオプションは、データベースダンプのバックアップを実行する場合に選択します。
  p.6 の「データベースダンプのバックアップの詳細」を参照してください。
  p.45 の「データベースダンプのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成」を参照してください。
- データベース全体 - データファイルコピーの共有
  このオプションは、Oracle アクセラレータのバックアップを実行する場合に選択します。
  p.6 の「Oracle アクセラレータのバックアップの詳細」を参照してください。
  p.37 の「Oracle アクセラレータのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成」を参照してください。

Oracle アクセラレータのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成

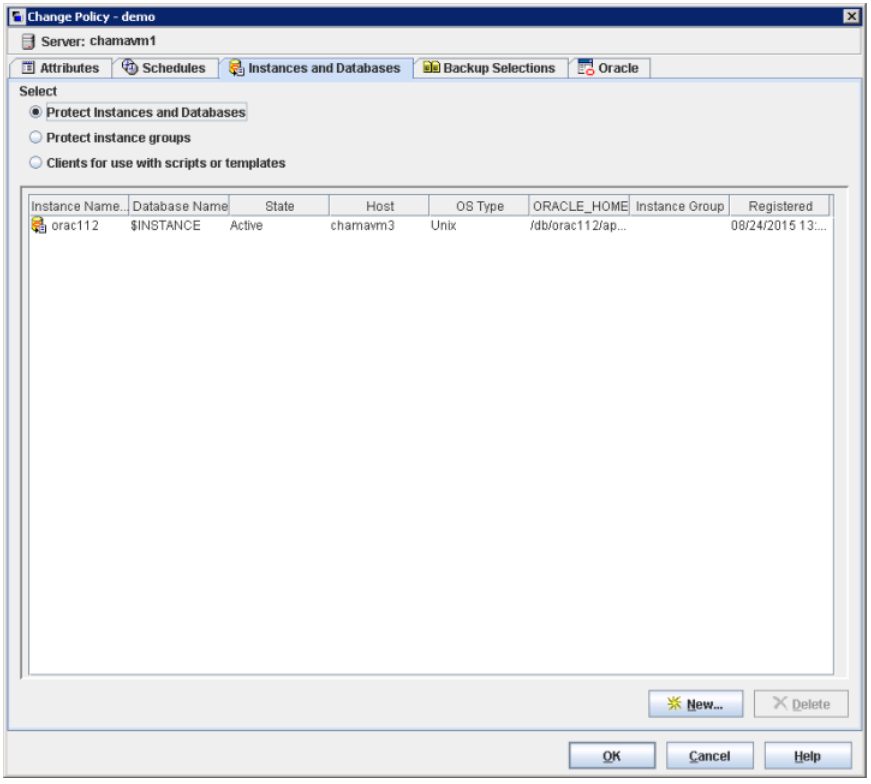
Oracle アクセラレータのバックアップのために OIP (Oracle Intelligent Policy) を作成するには、次の手順を実行します。

Oracle アクセラレータのバックアップのための OIP の作成

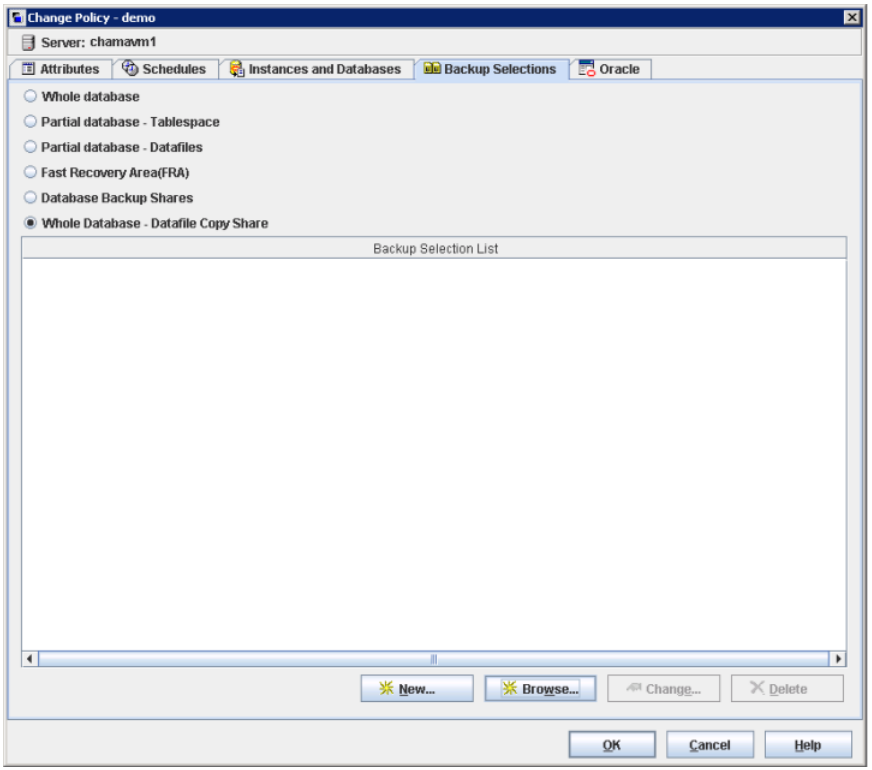
1. NetBackup 管理コンソールの左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ポリシー (Policies)]の順に展開します。
2. [処理 (Actions)]、[新規 (New)]、[ポリシー (Policy)]の順に選択するか、中央ペインで[すべてのポリシー (All Policies)]を右クリックして、ショートカットメニューの[新しいポリシー (New Policy)]をクリックします。
3. [ポリシータイプ (Policy type)]メニューで、[Oracle]を選択します。
4. [ポリシーストレージ (Policy storage)]メニューから、前に作成したストリームポリシーを選択します。



5 ［インスタンスとデータベース (Instances and Databases)］タブをクリックし、［インスタンスとデータベースの保護 (Protect Instances and Databases)］を選択します。

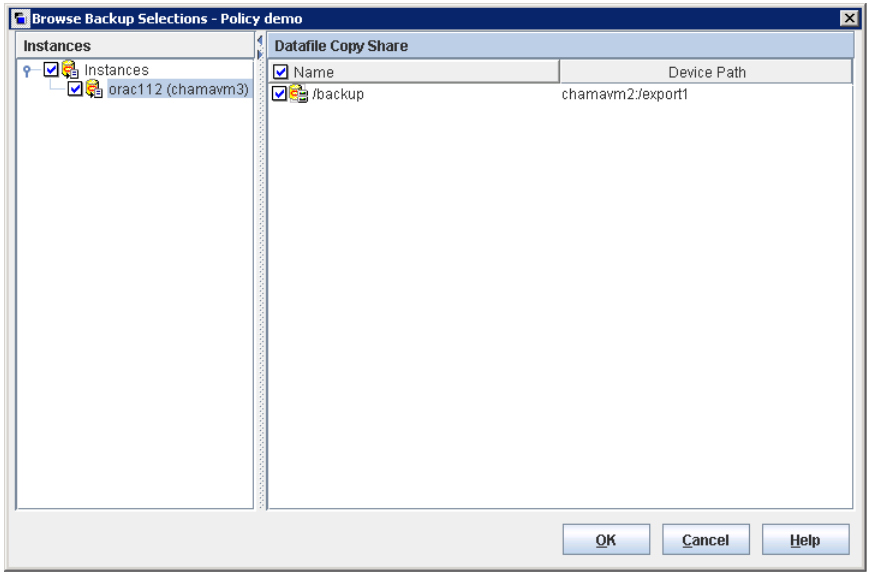


6 [バックアップ対象 (Backup Selections)]タブをクリックし、[データベース全体 - データファイルコピーの共有 (Whole Database - Datafile Copy Share)]を選択します。



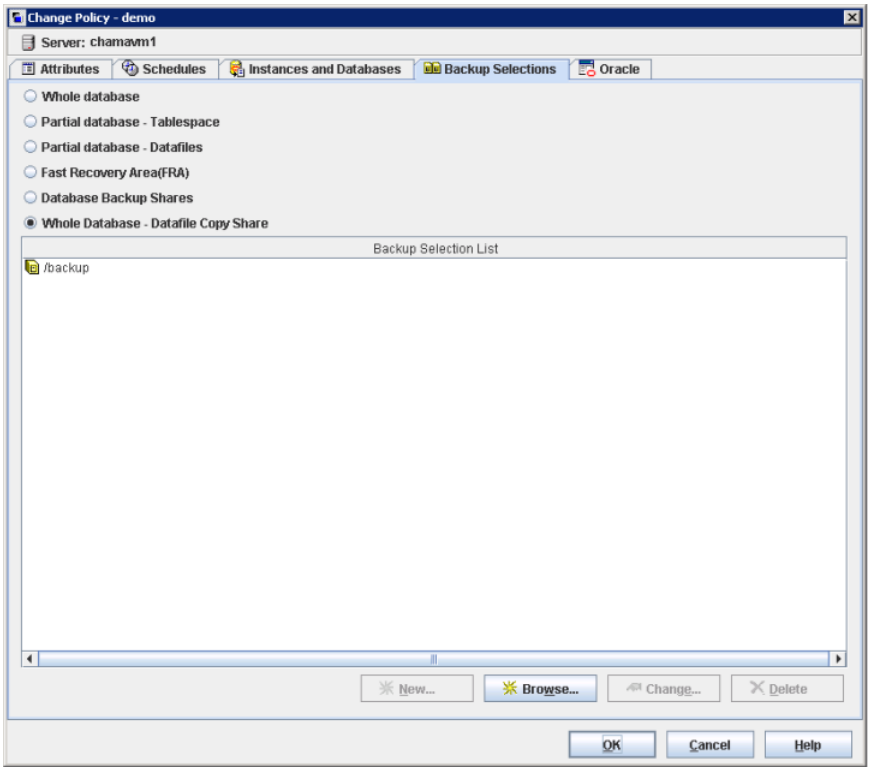
7 [参照 (Browse)]をクリックして、[バックアップ対象の参照 (browse backup selections)]ウィンドウを開きます。

8 インスタンス名とバックアップを含める場所を選択し、[OK]をクリックします。



9 [バックアップ対象 (Backup Selections)]リストを確認し、適切なインスタンスの場所が選択されていることを確認します。

選択したインスタンスは、Oracle サーバー上の共有のマウントポイントです。

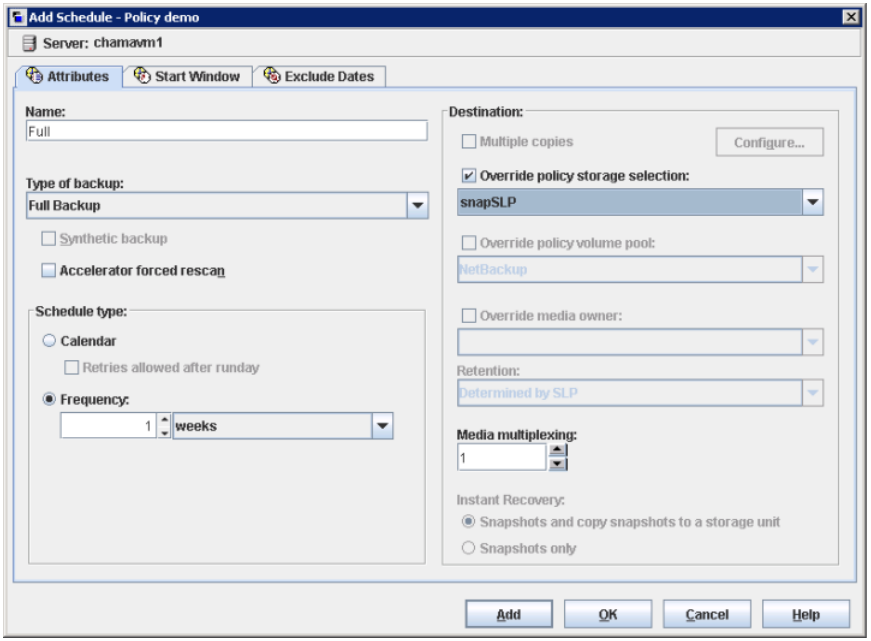


10 [スケジュール (Schedules)]タブをクリックし、スケジュール全体を作成します。

11 [バックアップ形式 (Type of backup)]メニューから[完全バックアップ (Full Backup)]を選択し、スケジュールの名前を入力します。

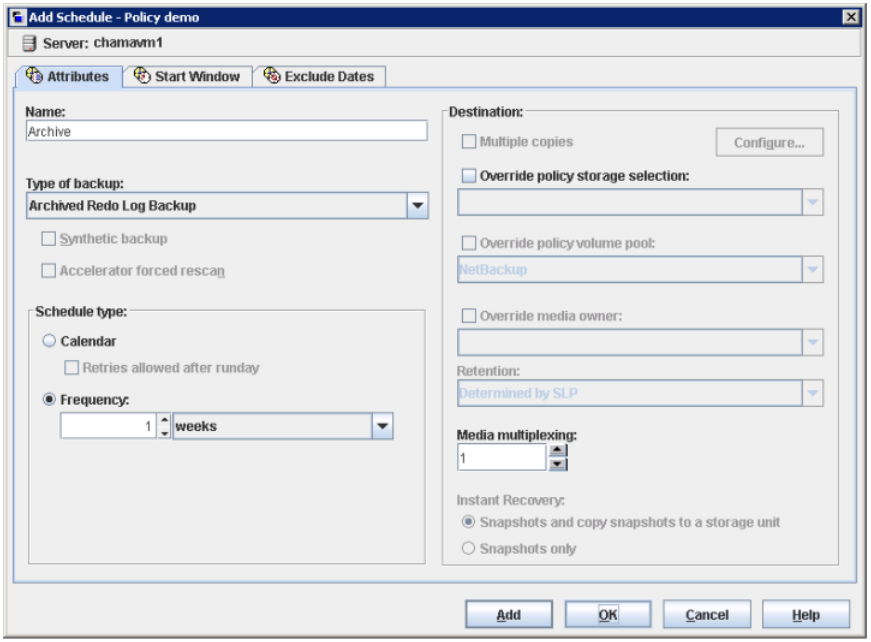
12 [ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)]を選択し、スナップショット用に前に作成した Storage Lifecycle Policy (SLP) を選択します。

13 ［追加 (Add)］をクリックします。

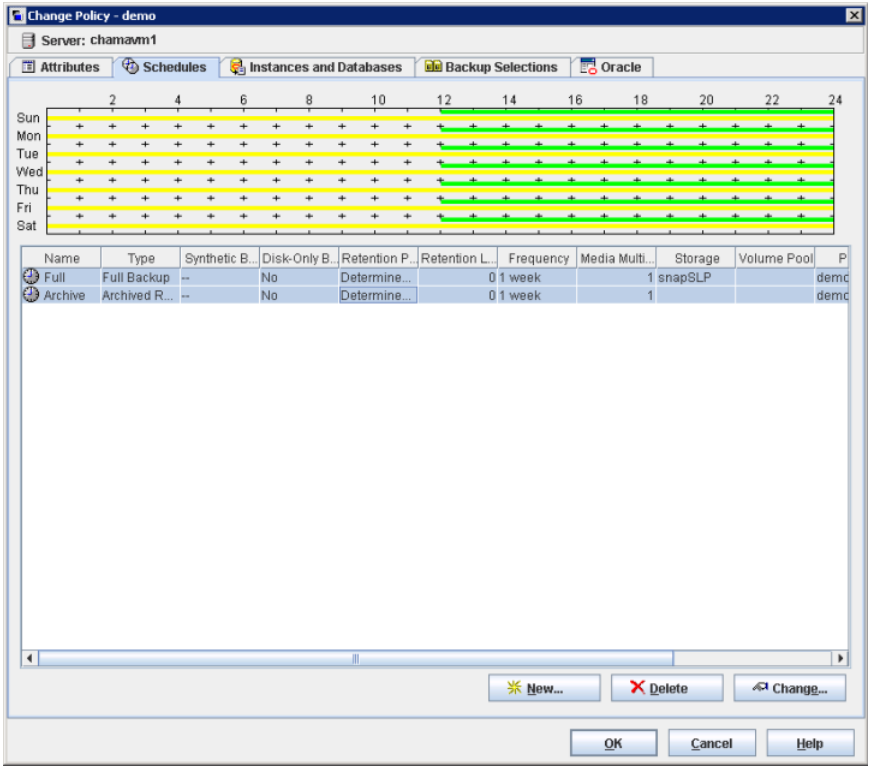


14 ［バックアップ形式 (Type of backup)］メニューから［アーカイブ REDO ログバックアップ (Archived Redo Log Backup)］を選択し、スケジュールの名前を入力します。

15 ［OK］をクリックして確認します。

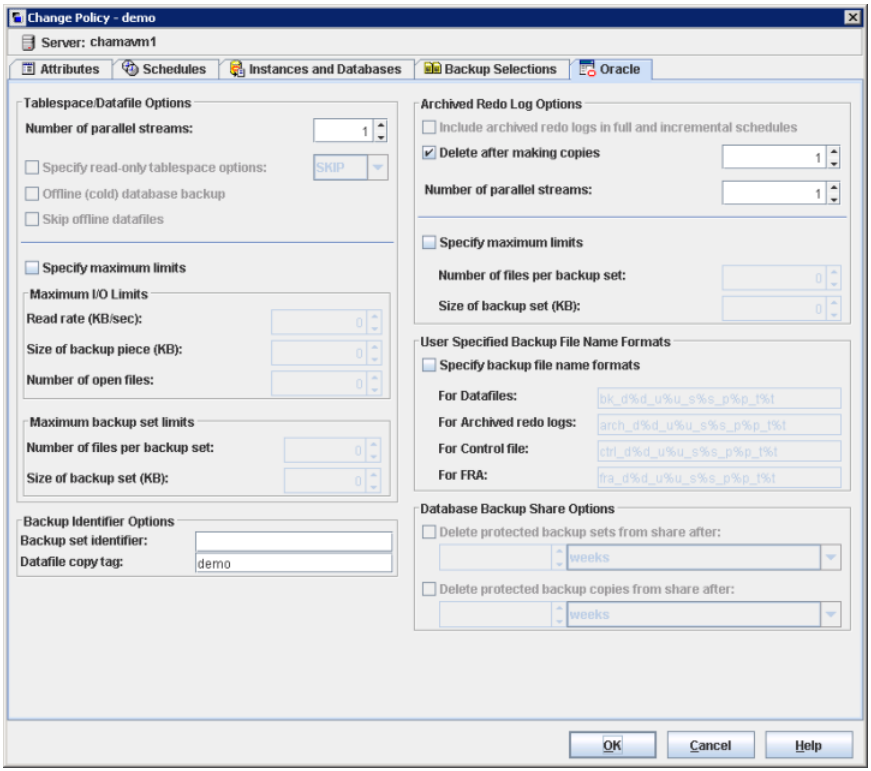


16 作成したスケジュールを見直して、選択したすべてが正しいことを確認します。



17 必要に応じて、選択したインスタンスを調整するために[Oracle]タブをクリックします。

18 [OK]をクリックして、設定を完了します。



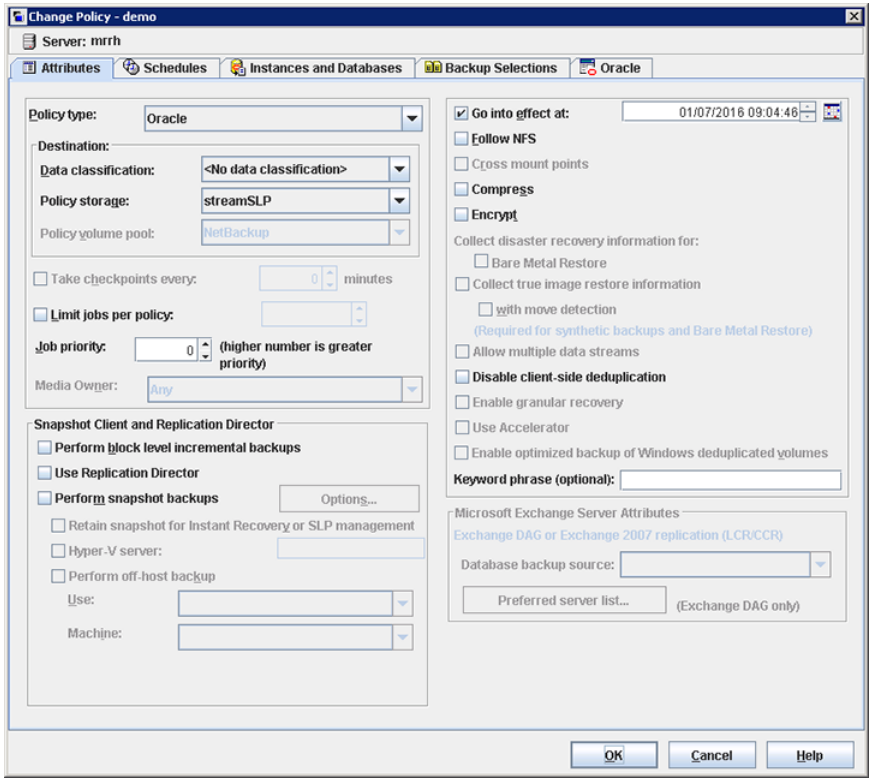
p.7 の「Copilot の構成の概要」を参照してください。

データベースダンプのバックアップのための OIP (Oracle Intelligent Policy) の作成

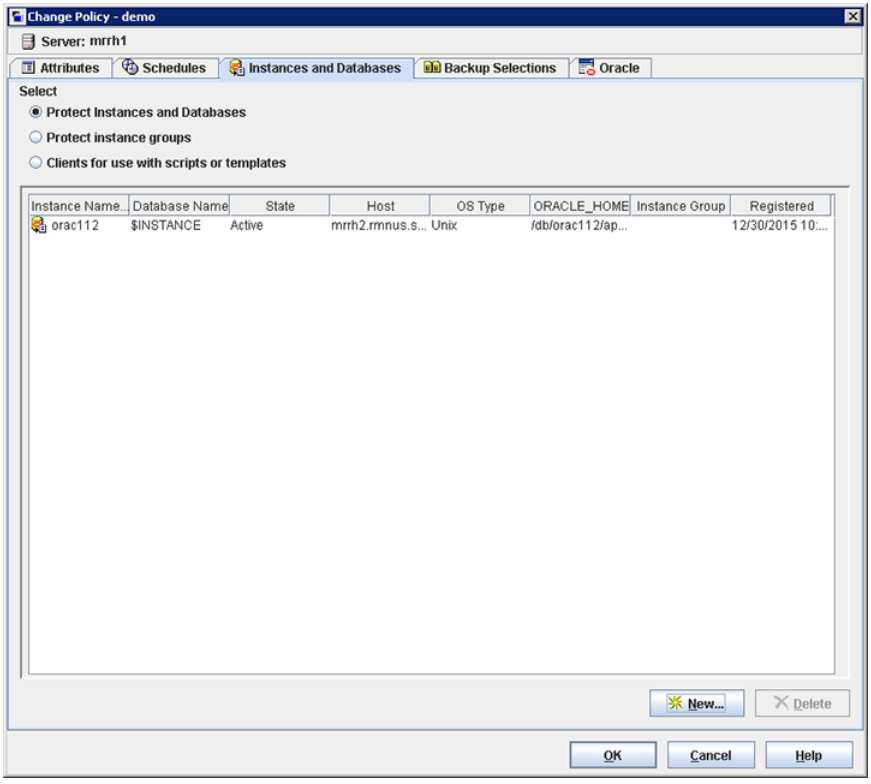
データベースダンプのバックアップのために OIP (Oracle Intelligent Policy) を作成するには、次の手順を実行します。

データベースダンプのバックアップのための OIP の作成

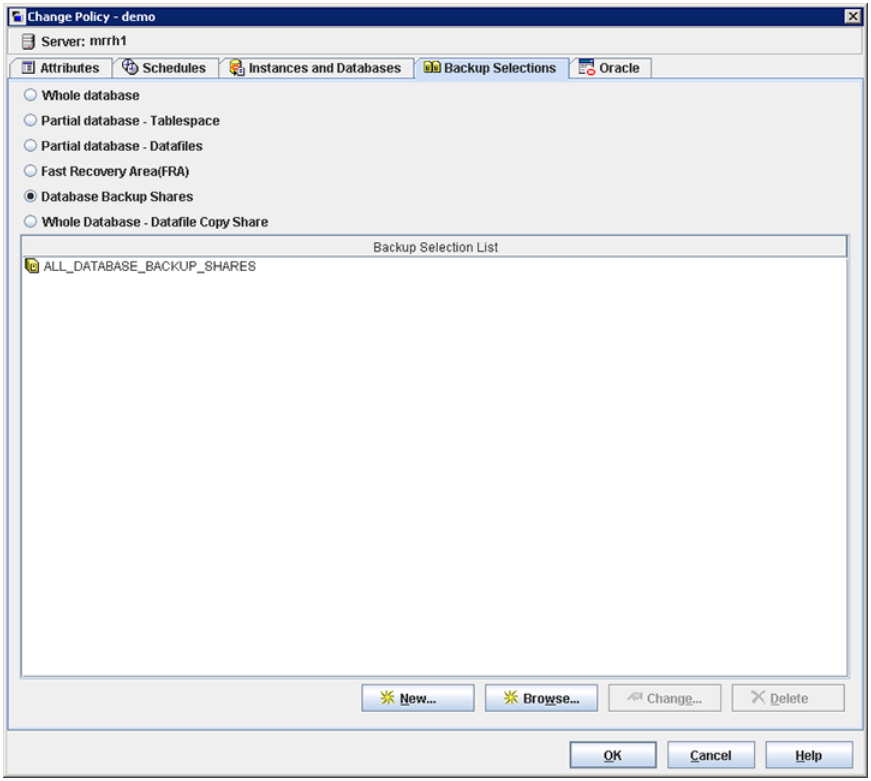
1. NetBackup 管理コンソールの左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ポリシー (Policies)]の順に展開します。
2. [処理 (Actions)]、[新規 (New)]、[ポリシー (Policy)]の順に選択するか、中央ペインで[すべてのポリシー (All Policies)]を右クリックして、ショートカットメニューの[新しいポリシー (New Policy)]をクリックします。
3. [ポリシータイプ (Policy type)]メニューで、[Oracle]を選択します。
4. [ポリシーストレージ (Policy storage)]メニューから、前に作成したストリームポリシーを選択します。



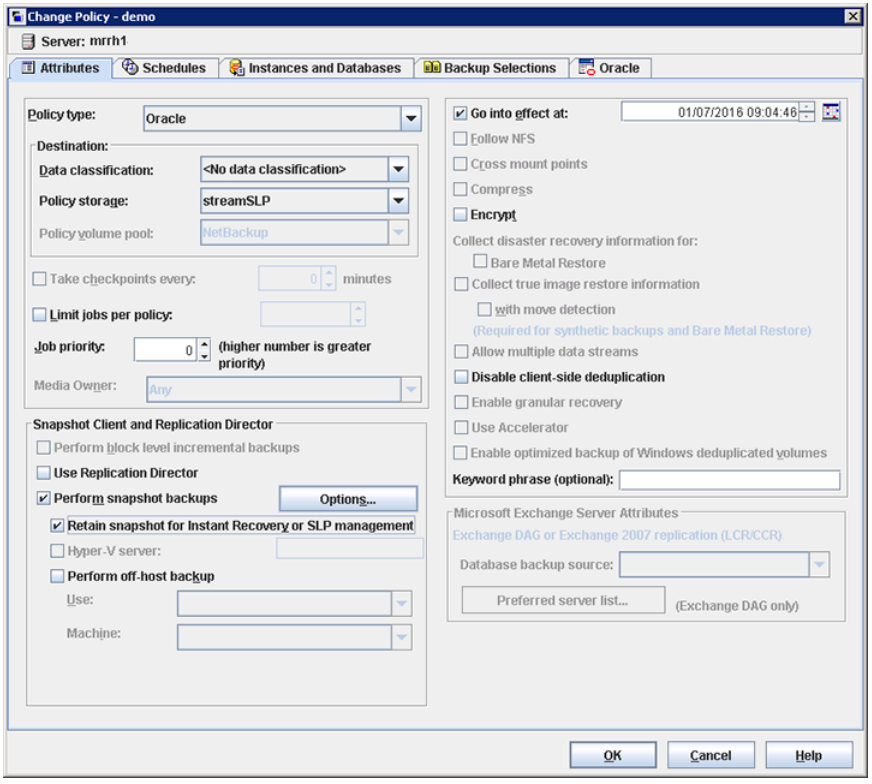
5 ［インスタンスとデータベース (Instances and Databases)］タブをクリックし、［インスタンスとデータベースの保護 (Protect Instances and Databases)］を選択します。



6 ［バックアップ対象 (Backup Selections)］タブをクリックし、［データベースのバックアップ共有 (Database Backup Shares)］を選択します。

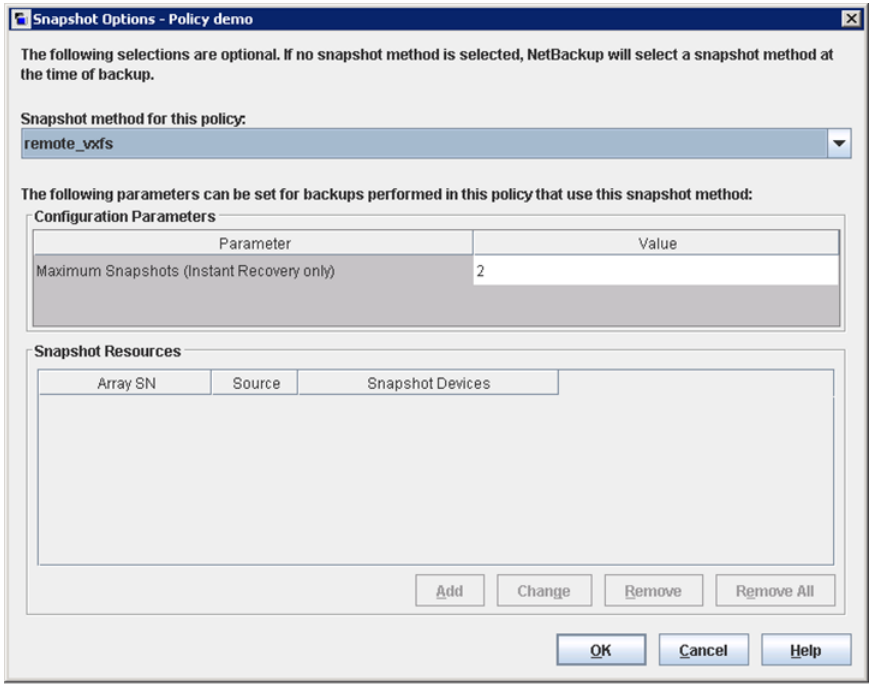


7 [属性 (Attributes)]タブをクリックし、[スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)]と[インスタントリカバリ用または SLP 管理用にスナップショットを保持する (Retain snapshots for Instant Recovery or SLP management)]を選択します。



8 [オプション (Options)]ボタンをクリックし、[このポリシーに指定されているスナップショット方式 (Snapshot method for this policy)]メニューから[remote_vxfs]を選択します。

9 ［OK］をクリックして確認します。

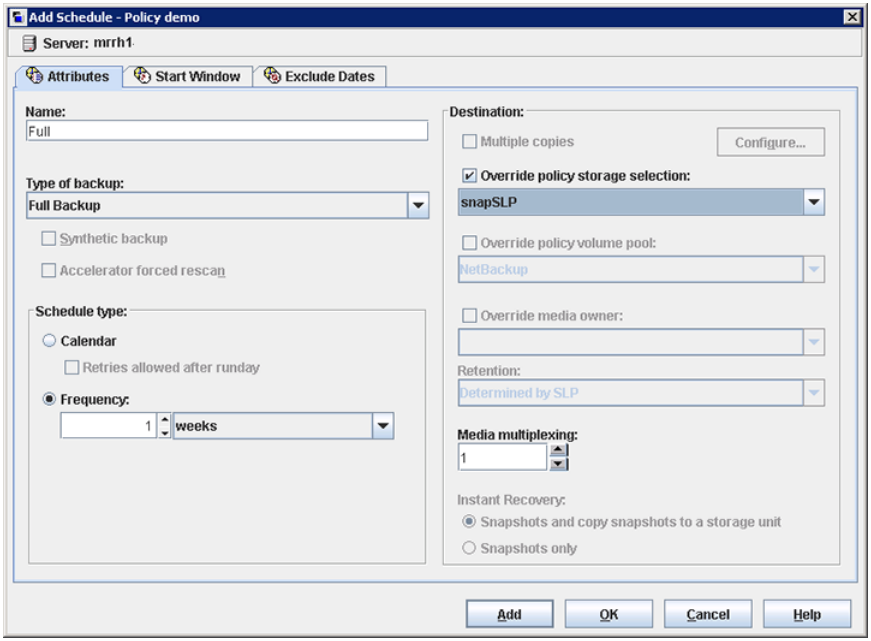


10 ［スケジュール (Schedules)］タブをクリックし、スケジュール全体を作成します。

11 ［バックアップ形式 (Type of backup)］メニューから［完全バックアップ (Full Backup)］を選択し、スケジュールの名前を入力します。

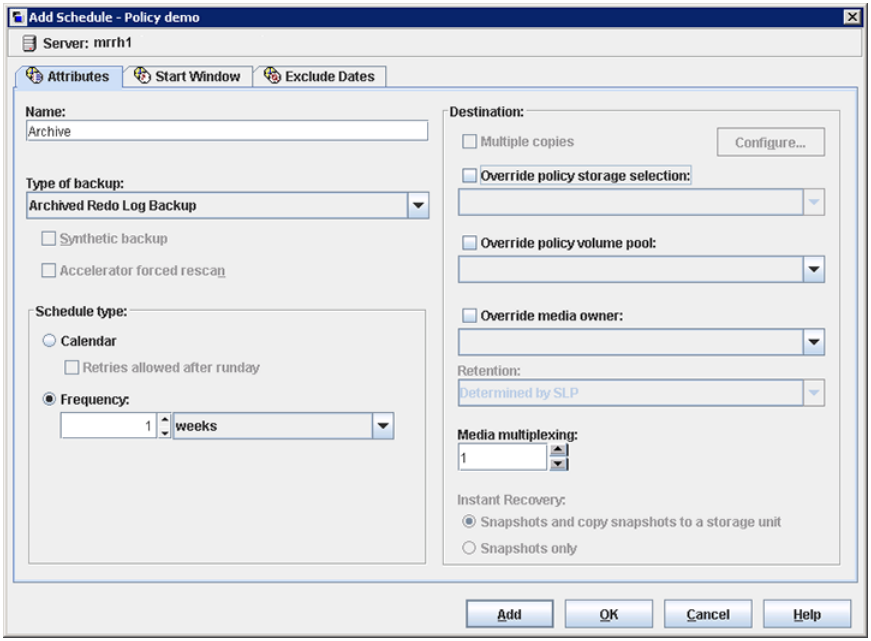
12 ［ポリシーストレージの選択を上書きする (Override policy storage selection)］を選択し、スナップショット用に前に作成した Storage Lifecycle Policy (SLP) を選択します。

13 ［追加 (Add)］をクリックします。

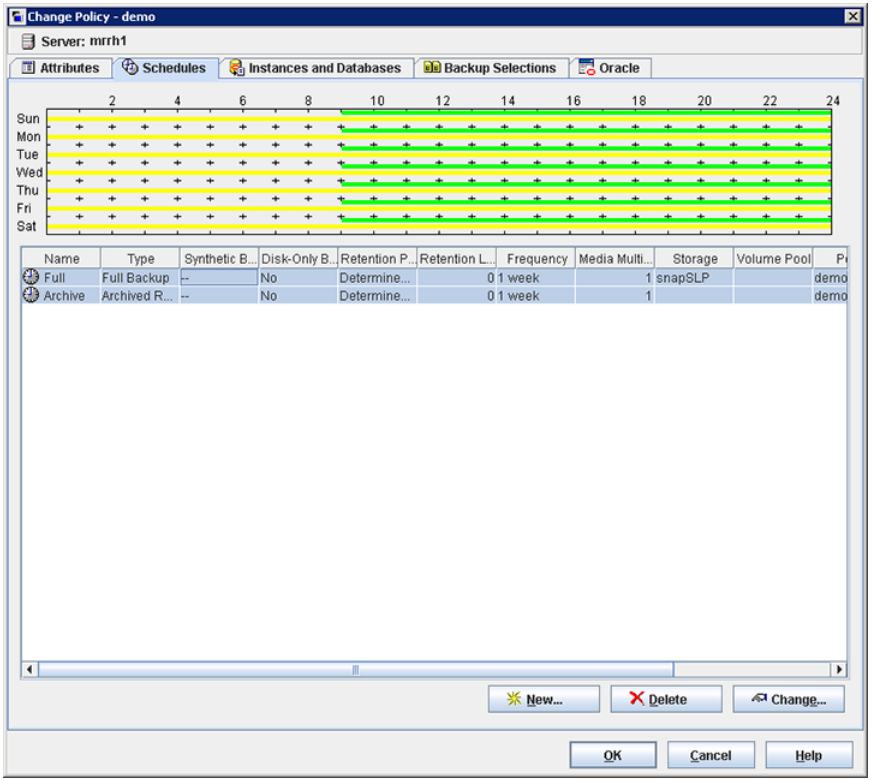


14 ［バックアップ形式 (Type of backup)］メニューから［アーカイブ REDO ログバックアップ (Archived Redo Log Backup)］を選択し、スケジュールの名前を入力します。

15 ［OK］をクリックして確認します。

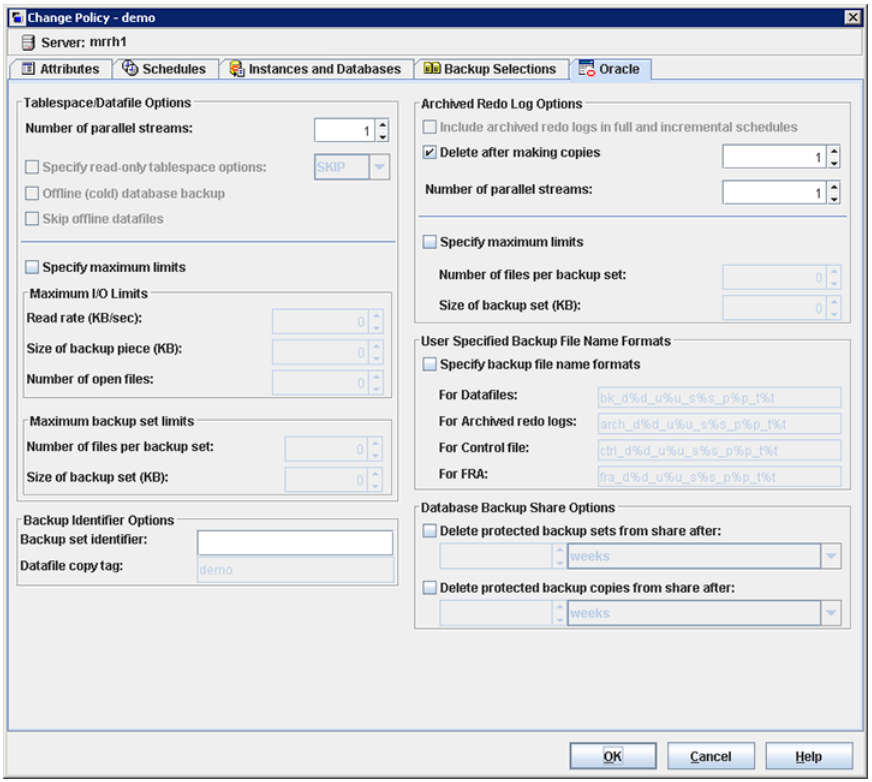


16 作成したスケジュールを見直して、選択したすべてが正しいことを確認します。



17 必要に応じて、選択したインスタンスを調整するために[Oracle]タブをクリックします。

18 [OK]をクリックして、設定を完了します。



p.7 の「Copilot の構成の概要」を参照してください。